

第 3 回 歴史文化保存展示施設専門検討委員会 意見要旨《発言順》

報告(1)「歴史文化保存展示施設整備計画等策定支援業務委託業者について」	
No.	内容
	意見・質問なし

報告(2)「(仮称)浜田歴史資料館検討会の検討結果報告について」		
No.	内容	
1	質問	<p>今後の検討会の進め方について、浜田郷土資料館の現地見学等はあるのか。浜田郷土資料館の収蔵状況等を把握していただいたうえで、議論が行われることが望ましいと考える。</p> <p>また、株式会社トータルメディア開発研究所(以下、トータルメディア)の役割はどのようになるのか。</p>
	回答	<p>今後の進め方については、第1回目の資料において記載をしている。なお、次回の検討会の進め方については、今回議論をお願いする。また、現地見学については、現時点では考えていない。本来であれば、先進地視察も考えていたが、コロナの状況を見て、保留をしている状況にある。</p> <p>トータルメディアの検討会における役割は、全国的・専門的な見地より資料作成や情報提供などで支援をしていただくことになる。</p>
2	質問	<p>施設は博物館施設とするか、または博物館相当施設とするのかの考えはあるのか。博物館施設は県が認定するものであり、認定されると国の活動費補助金の利用ができる。</p>
	回答	<p>博物館施設にするかの方向性は定まっていないため、今後議論をしていただきたい。</p>
3	質問	<p>(仮称)浜田歴史資料館検討会の会議録等の資料をいただいている。本検討会では、(仮称)浜田歴史資料館検討会の議論を踏まえたうえで、議論を進めるという位置づけでよろしいか。</p>
	回答	<p>その通りです。なお、(仮称)浜田歴史資料館検討会の検討結果を受け、浜田市が検討を加え、現在の整備方針を示しているので、基本的にはこの方針に則り議論を進めていただきたい。</p>

議題(1)「歴史文化保存展示施設と世界こども美術館創作活動館との在り方について」

No.	内容	
1	意見	<p>複合施設としての在り方については、下記の4つ理由から施設別の複合化が望ましいと考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 資料館と美術館の性質 資料館は知識を得て研究する性質。美術館は感性や感覚を養う性質であり、ジャンルが異なる。 2 対象年代 資料館は大人が主。美術館は小学校低学年までが対象。 3 展覧会の内容 資料館は観覧が主。美術館は作品に触れられるような参加型が主。 4 世界こども美術館が今までの活動で築きあげた歴史やコンセプト、ユニークさを失う恐れがある。 ただ施設別の複合化となったとしても、歴史展示・美術展示の間には、しっかりとした柱を通す必要がある。
2	質問	この複合施設としての在り方については、トータルメディアの意見を受けたものか。
	回答	受けていない。議論を進めるうえで例示しているものである。
3	意見	<p>複合施設としての在り方については、施設別の複合化が望ましいと考える。</p> <p>浜田市教育委員会が刊行した「ふるさと浜田の歩み」は、小学校高学年から大人まで読める浜田市の通史が載っている。これをベースに展示を考えると良い歴史展示になると思う。</p> <p>より専門的なことを知りたい人には、古文書や地図などが見られる部屋があればいいと思う。</p>
4	意見	今後の博物館の展示を考えると、物にこだわるよりも、映像や体験が重要と考える。体験に関しては、世界こども美術館が素晴らしいノウハウを持っているので、これを活用するべきである。
5	意見	複合施設としての在り方については、施設別の複合化となるのは致し方ない。このときに、創作室の使い方が重要になってくると思う。学校では水墨画を書いたり、神楽を学習したりする授業があるので、創作室では体験活動、歴史展示では時代背景を学ぶことができると思う。
6	意見	複合施設として、沖縄県立博物館・美術館などの事例もあるため、今後そのような事例もトータルメディアより紹介をいただけたらと思う。

7	質問	組織体制について、現在の世界こども美術館は業務委託か。
	回答	5年間の指名による指定管理である。
8	意見	<p>委託にすると継続性がなく、人が育たない。また歴史文化保存展示施設の嘱託や臨時職員の組織体制は継続性において不安であり、優秀な人材の確保も難しい。将来的なことを考えると少しでも人員を増やしたほうがよい。</p> <p>複合施設の在り方としては、創作室など共用できる部分は共用するという在り方でよいと思う。また、美術部門・歴史部門の対象は小学3年生を一つの境として考えられる。</p> <p>また、ふるさと郷育の「郷育」は、「教育」の方が望ましい。</p>
	回答	<p>人材育成に関しては、今年度より会計年度任用職員制度が導入され、以前よりも継続的な雇用・人材育成も可能になってきている。</p> <p>「教育」については、教育委員会では、「教育」、「郷育」、「共育」と場面により使い分けをしている。</p>
9	意見	組織体制については、複合化の在り方等が決まってからの話になろうと思う。ただ、現在の世界こども美術館の8名体制もギリギリの状況であり、以前より求められている石正美術館との連携も人員の関係で進んでいない現状にある。
10	意見	世界こども美術館は、樹木が生える前は、西側のバイパスから見る事ができた。周辺の整備にも目をかけて欲しい。

議題(2)「次回専門検討委員会の進め方について」

No.	内容	
1	意見	当初の予定だと、次回から部会となるが、今一度振り返りたいことがある。それは建物についてであり、専門業者であるトータルメディアも加わってくれたので、再度、建物について考えて、共通認識を持ったうえで、各部会で議論を進めたほうが効率がよいと考える。
2	意見	浜田郷土資料館と世界こども美術館の両館を伺ってきちんと把握をしていないため、ここで拙速に意見を述べることはしないが、今までの議論についてはしっかりと理解をしている。
3	意見	<p>今までの議論を聞いて、費用対効果について考えた。つまりは入館者を増やすことが重要であり、そのためには学校教育やふるさと郷育の取り組みが必要である。自分の経験から、小・中・高校は先生が動かないと資料館には来てくれず、資料館に来てもらえないとふるさとへの愛着も生まれてこない。</p> <p>世界こども美術館へは授業の一環として、児童が訪れているので、浜田郷土資料館についても教育の一環として利用されるように、例えば、モデル校の選定や教員への歴史学習などを実施することにより、利用促進を図る手立てを考えて、次回示して欲しい。</p>

4	意見	学校利用に関しては、美濃加茂市民ミュージアムが館にバスを保有していて、小・中学生が年1回は必ず来館する仕組みをもっている。
5	意見	浜田市の教育ビジョンの資料をダイジェスト版でよいので、次回までに送付をしてもらいたい。
6	意見	次回の建物に関する議論の中で、収蔵庫に関するご意見も伺いたい。現在、浜田郷土資料館には約12,000点もの資料があるため、廃棄や分散管理なども含めて考える必要がある。
7	意見	収蔵庫は重要な論点の一つである。